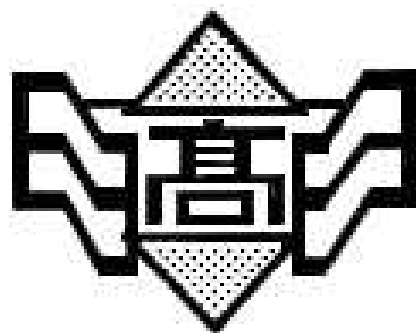


学 習 の し お り

1 年生用



2 0 2 0

宮城県宮城広瀬高等学校

目 次

1. これからの高校生活にあたって	1
2. 令和2年度入学生教育課程表	3
3. 各科目の年間学習計画と学習の仕方（各教科）	4
4. 学習計画表（第1回～第4回定期考査）	3 6
5. 考査点・評価点をまとめよう	5 2
6. 私のスケジュール	5 3

これからの高校生活にあたって

宮城広瀬高等学校 教務部

皆さんは、これから高校で、新しい生活を始めようとしています。授業や部活動、さまざまな学校行事を通して、皆さんがより実りある高校生活を送ることを願っています。

さて、高校は中学校とは違って義務教育ではありません。皆さんは高校で学ぶことを希望して入学しました。つまり、皆さんは何らかの目標を達成するために本校に入学したはずです。大学や短大に進学するためであったり、自分の希望するところに就職するためであったり、部活動を頑張る良い結果を残すためであったり、その目標はさまざまだと思います。しかし、共通していえることは、これからの3年間、自らの目標を立て、いろいろなことにチャレンジし、努力を積み重ねていくことが必要だということです。その基本は学習（勉強）にあります。

以下に、義務教育とは違う点を説明しますので、よく理解をしておいて下さい。

1 履修について

履修とは授業に出席してきちんと授業を受けることをいいます。本校では、授業の欠席時数が標準時数（単位数×35時間）の3分の1を超えると履修が認められません。また、本校では全科目の履修を義務づけています。つまり、授業をある一定以上休んでしまうと履修が認められず、履修が認められない科目が1つでもある場合は、もう一度最初から同じ学年をやり直さなければなりません。

2 単位について

本校で設定している教科・科目は、それぞれに単位が定められています。たとえば、「国語総合」は週5時間授業があるので、「5単位」の授業となります。

単位とは、各科目が一週間に実施される時間数のことをいいます。各科目等の1週間の授業時間が合計で31時間あるので、1年間で31単位分の授業を受けることになります。

3 単位修得について

単位修得とは、1年間きちんと授業を受けて履修の認定を受けた科目の成績が一定の基準を満たした場合、年度末の3月に行われる成績会議で認定されるものです。

本校では卒業までに81単位以上を修得しないと卒業できません。また、1学年から2学年、2学年から3学年に進級するためにも、一定以上の単位修得が必要です。もし単位修得数が基準に満たない場合は原級留置（留年）となり、もう一度同じ学年をやり直さなければなりませんので、十分注意して下さい。

4 定期考査と成績（評点）について

皆さんの日頃の学習の成果を確かめるために設けられているのが定期考査です。実技教科（体育・芸術等）を除くほとんどの教科・科目について、年4回、定期考査（試験）を実施します。定期考査の点数を含め、関心・意欲・態度や知識・理解などの観点に基づいて総合的に評価を行い、皆さんの成績（評点）が出されます。

考査は絶対に欠席しないでください。欠席にやむをえない理由がある場合は追考査の受験を認めますが、その場合、最大でも得点の8割しか考査点として認められません（忌引きやインフルエンザ等の出席停止、大会参加等の公認と認められる欠席の場合は、追考査の得点を10割認めます）。また、考査や再指導において不正行為を行った場合には、当該科目の考査点が0点となるほか、相当の処分を受けることになります。

5 欠点と再指導について

40点未満の評点が欠点（赤点）です。欠点となった科目については、定期考査終了後、担当の先生へ願い出るにより、再指導を受けて欠点解消を目指すことになります。再指導の成果が良好であれば、評点は最高で40点までに挽回できます。再指導を受けなかった場合や、再指導の成果が良好でない場合は、評点は欠点のままになります。ただし、定期考査を実施しない科目（体育など）については、担当の先生の指示に従ってください。

6 評定について

年4回出される成績（評点）を平均した点数が学年成績（一年間の成績）となり、5段階の評定が決まります。評定は学年成績が80点以上の場合は「5」、70～79点は「4」、50～69点は「3」、40～49点は「2」、欠点である39点以下は「1」です。評定が「1」の場合はその科目の単位の修得は認められません。この評定は、皆さんが進学や就職するときに重要ですので、欠点とにならないようにしてください。

7 技能審査成果の単位認定

本校では、下表に示す技能審査に合格した場合、進級・卒業のための単位として認定しています。学校で受検できるものもあるので、積極的に受けることを期待しています。

主なものには、次のものがあります。

技能審査の種類	単位を認められる教科・科目		認められる単位数
(公財) 日本英語検定協会主催 実用英語技能検定2級	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱのうち1科目	2単位
		コミュニケーション英語Ⅲ	2単位
(公財) 日本漢字能力検定協会主催 日本漢字能力検定2級	国語	国語総合	2単位
(財) 日本数学検定協会主催 数学検定準2級	数学	数学Ⅰ	1単位
(財) 日本数学検定協会主催 数学検定2級	数学	数学Ⅱ	2単位

※この他に、全国高等学校家庭科食物調理技術検定1級は「フードデザイン」「家庭基礎」（2単位）、家庭調理技能検定2級は「フードデザイン」（2単位）、介護職員初任者研修は「家庭基礎」と「生活と福祉」のうち1科目（2単位）があります。

8 学校外学修の単位認定

「社会体験・ボランティア活動」

主体的・継続的に取り組む姿勢を評価するため、「社会体験・ボランティア活動」という学校設定科目を設けています。年度始めに活動届を提出し、本校の定める条件を満たした場合、2単位まで修得することができます。

ただし、これにより認定された単位は進級及び卒業のための単位には含まれません。

宮城県宮城広瀬高等学校【令和２年度入学生教育課程】

単位	【第 1 学年】		【第 2 学年】			【第 3 学年】								単位	
						理系		文系							
1	国語総合 (5)		現代文 B (2) ※分割履修			現代文 B (3) ※分割履修								1	
2														2	
3			古典 B (2) ※分割履修			古典 B (2) ※分割履修								3	
4														4	
5	世界史 A (2)		X	地理 B (4)	日本史 B (4)	政治・経済 (3)								5	
6														6	
7														7	
8	倫理 (2)		数学 II (4)			体育 (2)								8	
9	数学 I (3)													9	
10														10	
11														11	
12	数学 A (2)		Y	物理基礎 (2)	地学基礎 (2)	コミュニケーション英語 III (4)								12	
13														13	
14														14	
15	生物基礎 (2)		化学基礎 (2)			英語表現 II (2) ※分割履修								15	
16														16	
17	体育 (3)		体育 (2)			A	数学 III (5)	数学 II (3)	世界史 B (5)	地理 B (3)		日本史 B (3)		17	
18														18	
19			保健 (1)												
20	保健 (1)		Z	数学 B (2)	音楽 II (2)	美術 II (2)	B	数学 B (2)		音楽 III (2)	美術 III (2)	英語会話 (2)	生活と福祉 (2)	20	
21	音楽 I (2)	美術 I (2)												21	
22	コミュニケーション英語 I (3)													コミュニケーション英語 II (4)	
23			化学基礎 (2)		地学基礎 (2)		子どもの発達と保育 (2)	23							
24			英語表現 I (2)		英語表現 II (2) ※分割履修			E	数学 II (2)		フードデザイン (2)		ビジネス基礎 (2)		
25						生物基礎 (2)			器楽 (2)		ビジュアルデザイン (2)		情報処理 β (2)	25	
26	英語表現 I (2)		家庭基礎 (2)			F	化学		生物基礎 (2)		器楽 (2)		ビジュアルデザイン (2)	情報処理 β (2)	26
27	社会と情報 (1)								生物基礎 (2)		器楽 (2)		ビジュアルデザイン (2)	情報処理 β (2)	27
28	社会と情報 (1)								生物基礎 (2)		器楽 (2)		ビジュアルデザイン (2)	情報処理 β (2)	28
29									29						
30	総合的な探究の時間 (1)		総合的な探究の時間 (1)			総合的な探究の時間 (1)								30	
31	ホームルーム活動 (0)		ホームルーム活動 (0)			ホームルーム活動 (0)								31	

「学校外学修」による単位認定

ボランティア活動は各学年最大２単位、３年間で６単位までの修得が可能。インターンシップ活動は第２学年のみ１単位まで修得可能。

32	社会体験・ボランティア活動 (0)， (1)， (2)	社会体験・ボランティア活動 (0)， (1)， (2)	社会体験・ボランティア活動 (0)， (1)， (2)										32
33													33
34			*	社会体験・インターンシップ活動 (0)， (1)	*								

「第３学年」における単位数及び科目選択について

	理系の単位数	文系の単位数			
国語	5	5，7	理系	17 ～ 21	数学Ⅲ(5)又は「数学Ⅱ(3)＋数学Ｂ(2)」を選択 数学Ｂ(2)は第２学年で当該科目を履修した者が選択可能
地理歴史	0	3，5		22 ～ 25	物理(4)又は生物(4)を選択 物理(4)は第２学年で物理基礎(2)を履修した者が選択可能
公民	3	3			
数学	3，5	0，2	文系	17 ～ 21	世界史Ｂ(5)又は「地理Ｂ(3)又は日本史Ｂ(3)＋音楽Ⅲ(2)・美術Ⅲ(2)・英語会話(2)・生活と福祉(2)から１科目」を選択
理科	8	0，2，4		17 ～ 19	地理Ｂ(3)・日本史Ｂ(3)は第２学年で当該科目を履修した者が選択可能
保健体育	2	2，4		20 ～ 21	音楽Ⅲ，美術Ⅲは第２学年でそれぞれ音楽Ⅱ，美術Ⅱを履修した者が選択可能
芸術	0	0，2，4		22 ～ 23	実践国語(2)・スポーツⅠ(2)・情報処理α(2)から１科目選択
外国語	6	6，8		24 ～ 25	化学基礎(2)・地学基礎(2)・子どもの発達と保育(2)から１科目選択 地学基礎(2)は第２学年で当該科目を履修した者が選択可能
家庭	0	0，2，4，6			
商業	0	0，2，4		26 ～ 27	数学Ⅱ(2)・フードデザイン(2)・ビジネス基礎(2)から１科目選択
				28 ～ 29	生物基礎(2)・器楽(2)・ビジュアルデザイン(2)・情報処理β(2)から１科目選択
				22～23/28～29	情報処理α(2)・情報処理β(2)はいずれか一方のみ選択可能

○評価の方法 以下の観点に基づいて評価を行う。

観点	身につけたい能力	観察	発表	成果物	小テスト	考查
関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしている。	○	◎	○		
書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書くことができる。	○		◎		◎
読む能力	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりできる。	○	◎			◎
話す能力・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりできる。	○	◎	○		
知識・理解	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。	○			◎	◎

年間授業計画(10～3月)

時期	考查	時数	領域	単元目標	内 容	活動 規 準	内 容	主な教科書教材	配 当	自己評価
10	第三回 考查範囲	29	読む	単元	【現】各段落や連の働きを理解し、相互の関係を読み取る。	言語活動	異なる話題や内容を読み比べ感想を書いたり、批評を行ったりする。	【小説】 「夢十夜」	6	A・B・C
				目標	作品全体の展開を確かめ、比喩などの表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえられるようになる。	評価規準	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現、書き手の主張をとらえたりできる。	【評論】 「ネットが崩す公私の境」	6	
			読む	単元	【古】各段落や連の働きを理解し、相互の関係を読み取る。	言語活動	異なる話題や内容を読み比べ感想を書いたり、批評を行ったりする。	【詩歌】 「一つのメルヘン」他	2	A・B・C
				目標	作品全体の展開を確かめ、対比などの表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえられるようになる。	評価規準	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価することができる。	古文を読むために⑤ 徒然草「花は盛りに」	2	
			話す・聞く	単元	相手の立場や考えを尊重し、進行の仕方などを工夫する。	言語活動	設定したテーマについて、問題解決のための話し合いを行う。	漢詩「春暁」「江雪」 「送元二使安西」	6	A・B・C
				目標	相手の考えを理解するために、相手の考えや要点を整理し、根拠の適否などを確かめるための質問などができる。	評価規準	課題を解決したり考えを深めたりするために、進行の仕方を工夫して話し合うことができる。	⑥話し合いをする	7	
			書く	単元	物事を見つめ、思考し、想像し、それを表現する。	言語活動	情景や心情の描写を取り入れて詩を創作する。		4	A・B・C
				目標	書き手として自らの思考を整理し、相手に同意や共感を得られるように、適切な表現ができるようになる。	評価規準	内容の構成や展開を工夫し、自分の考えを根拠と結びつけて書くことができる。	④創作する	8	
			イ							
			考查	1						A・B・C
11	第四回 考查範囲	29	読む	単元	【現】文脈をとらえ、筆者の考えを要約する。	言語活動	文章全体あるいは特定の項目を必要情報を拾選して要約する。	【評論】 「『間』の感覚」	6	A・B・C
				目標	文章中のキーワードを指摘できたり、指示語や接続詞などを意識したりして読めるようになる。	評価規準	文脈をとらえ、叙述に即して的確に読み取り要約することができる。	【評論】 「グローバリズムの『遠近感』」	6	
			読む	単元	【古】含蓄のある表現を分かりやすくまとめる。	言語活動	含蓄のある表現を分かりやすくまとめ発表する。	【短歌と俳句】 「その子二十」他	2	A・B・C
				目標	基本的な文法事項や訓読の方法を理解して、文章を読み取ることができるようになる。	評価規準	文脈をとらえ、叙述に即して的確に読み取り、含蓄のある部分を分かりやすく説明できる。			
			話す・聞く	単元	相互に自分の意見を伝え合い自己評価や相互評価を行う。	言語活動	相手の意見を聞いて質問したり反論したりする。	古今和歌集 奥の細道「旅立ち」「平泉」 論語「学問」「仁」	3 5 7	A・B・C
				目標	相互評価を行うことで、他者のもつ価値観と出会うことになり、自分とは異なる考え方を認められるようになる。	評価規準	話したり聞いたりしたことの内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、自分とは異なる考え方に気づくことができる。			
			書く	単元	正確な情報を伝えるために、調査を行い資料を準備する。	言語活動	出典を明示して、引用により読み手に説明が伝わる工夫を行う。	⑧意見を述べる	4	A・B・C
				目標	構成の仕方や語句の用い方などの良い点、修正すべき点を指摘し合うことの効果を認知できるようになる。	評価規準	構成や内容の工夫、表現の特色などについて、自己評価や相互評価を行い、それぞれの評価の機能を認識することができる。	⑨調査をもとに報告する	8	
			イ							
			考查	1						A・B・C
3	特編	2			3領域1事項の補充授業又は新年度の準備			補修教材 新年度教材	2	A・B・C

1 年 世界史 A

○ 学 習 の ね ら い

世界史 A は、近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、現代の諸課題を歴史的な観点から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養成することを目標としている。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

次の授業の単元については必ず教科書や資料集の該当部分やワークブックに目を通しておく。授業では必ず教科書、資料集、ワーク等を準備し、忘れ物がないように心掛けること。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

板書された事項についてはもちろんのこと、口頭で説明されたなかで重要な事項についてもメモを取り、復習の際に役立てるようにすること。小テストやワークブックなどの取り組みについても授業態度として評価するので、確実な取り組みを求める。

3 授業後 ～ 復習 ～

ノート・プリント等は常に整理し、定期考査前にすぐにテスト勉強ができるように準備しておくこと。教科書、資料集やプリント類はくり返し復習し、分からないことがあれば必ず教科担当に質問すること。

○ 評 価 の 方 法

評価は、定期考査分（7～8割）と提出物や学習状況（2～3割）とを総合して評価する。具体的な評価の観点は以下のとおり。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習 状 態 の 観 察	発 表 等	提 出 物	小 テ ス ト	定 期 考 査
関心・意欲・態度	世界史上の事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとしている。	○	◎	◎	◎	○
思考・判断・表現	世界史上の事象から課題を見出し、我が国及び世界の形成の歴史的過程について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。	○	◎	◎		◎
資料活用の技能	世界史上の事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	○	◎	◎		
知識・理解	我が国及び世界の形成の歴史的過程についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。	○			◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
地理歴史	世界史A	1年 必修	2	世界の歴史A(山川出版社)	最新世界史図説タペストリー(帝国書院) 世界の歴史ワークノート(山川出版社)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考 査 範 囲	世界史への誘い 第1部 世界の一体化と日本 第1章 世界の諸文明	17	・日本列島の中の世界史 ・東アジア世界 ・南アジア世界と東南アジア世界 ・西アジア世界 ・古代地中海世界 ・ヨーロッパ世界	・世界史と日本との繋がりについて幾つかの事例を元に考える ・中国を中心とする東アジアの文明の特質を理解する ・南アジア、東南アジアの文明の特質を理解する ・西アジアの文明の特質を理解する ・古代地中海の文明の特質を理解する ・中世ヨーロッパの文明の特質を理解する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
5		第2章 世界の一体化の始まり		・16世紀の世界の一体化 ・明代と清代の東アジアの繁栄 ・アジア諸帝国の繁栄	・大航海時代と世界の一体化開始の背景を理解する ・東アジア世界の明清時代の繁栄を理解する ・サファヴィー朝、ムガル帝国、オスマン帝国の繁栄と宗教的特質を理解する	A・B・C A・B・C A・B・C
6		考 査	1			
7	第二回 考 査 範 囲	第2章 世界の一体化の始まり	17	・ルネサンスと宗教改革 ・新大陸征服と大西洋経済の形成 ・主権国家体制の成立と展開 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・産業革命 ・自由主義と国民主義の進展	・ルネサンスと宗教改革の近代性について理解する ・先住民の征服と三角貿易について理解する ・16～18世紀のヨーロッパ諸国家の特質を理解する ・二つの市民革命と近代市民社会の成立を理解する ・産業革命と資本主義の芽生えについて理解する ・ウィーン体制後のヨーロッパの自由主義の進展、ドイツ・イタリアの統一について理解する	A・B・C A・B・C A・B・C
8		第3章 近代の世界		・合衆国の発展とラテンアメリカ	・合衆国の工業化の進展と世界資本主義に従属するラテンアメリカについて理解する	A・B・C
9		考 査	1			
10	第三回 考 査 範 囲	第3章 近代の世界 第2部 地球社会と日本 第1章 現代の始まりと帝国主義	16	・アジアの植民地化 ・帝国主義と世界分割 ・植民地、従属国での民族運動	・西欧列強による植民地分割を理解する ・帝国主義政策の展開と国際対立を理解する ・各地域における民族運動について理解する ・東アジアでの日本の帝国主義政策について理解する	A・B・C A・B・C A・B・C
11		第2章 二つの世界大戦		・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・アジア諸地域の民族運動 ・世界恐慌 ・第二次世界大戦	・第一次大戦の原因、特徴、結果と影響を理解する ・戦間期の国際秩序について理解する ・大戦後のアジアの民族運動の特徴を理解する ・世界恐慌とその影響について理解する ・第二次大戦の原因、特徴、結果と影響を理解する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
12		考 査	1			
1	第四回 考 査 範 囲	第3章 平和と冷戦	16	・冷戦の開始と激化	・東西両陣営の形成とそれに伴う世界各地での対立について理解する。	A・B・C
2		第4章 現代世界と日本		・第三世界の出現と多極化 ・冷戦の終結 ・グローバル化と世界資本主義 ・EUの拡大とその問題 ・躍動するアジア ・イスラーム主義運動	・AA諸国の独立と冷戦への影響について理解する ・冷戦の終結とその影響について理解する ・世界資本主義の浸透とその問題点を考える ・EUの拡大と移民問題等の問題を考える ・アジアの経済躍進とその影響力の拡大について考える ・パレスチナ問題や9.11以後の問題について考える	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
3		考 査	1			
3		主題学習 持続可能な社会への展望		・ケータイから地球環境・地域紛争・情報社会を考える	・真の国際人となるために自分でできることは何かを考える力を養う	A・B・C

1 年 倫理（全クラス）

○ 学 習 の ね ら い

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について学び、理解と思索を深めてゆきます。また、人格の形成に自ら努める実践的な意欲を高め、他者と共に生きるひとりの人間としての自己意識の確立を目指し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につけてゆきます。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ①あらかじめ教科書や資料集に目を通し、概要をつかんでおく。
- ②新聞、ニュースなどの報道に注意し、現在の話題や日本・世界の課題についての情報を得ておく。
- ③宗教・文化・歴史・旅行などの特集番組を視聴してみよう。
- ④忘れ物は厳禁。授業開始前には準備を整えておくこと。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ①授業に集中し、常に自分の知っている知識との関連性について考えること。
- ②ノートは板書事項だけでなく、考えたこと、調べたこと、気付いたことなども記入する。
- ③積極的に発言しよう。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ①人名や、関連用語の意味や相互のつながりについて整理しておこう。
- ②新たに得た知識をもとに、文献やインターネットで調べ、知識のネットワークを広げる。
- ③なぜそうなるのか、自分自身に置き換えて考えてみること。

○ 評 価 の 方 法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行います。定期考査の割合は80%を原則とします。

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観 点	評 価 項 目			
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学 習 状 態 の 観 察	発 表 発 問 評 価	提 出 物
関心 ・意欲 ・態度	人間尊重の精神と自己形成について関心をもち、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身につけている。	◎	◎	○
思考 ・判断 ・表現	自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現することができる。	◎	◎	◎
資料活用 の技能	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択できる。また、これらを自己形成に資するように活用することが身につけている。	○	◎	○
知識・理解	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	◎	○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
公民	倫理	1年 全クラス	2	高等学校 倫理 (第一学習社)	テオーリア 最新倫理資料集 新版初訂 学習事項の整理と問題 倫理ノート (上記2点ともに第一学習社)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	1章 青年期の課題と自己形成 ①よく生きることを求めて ②青年期の課題 ③自己の探求 ④現代の青年期	17	人間の特性や発達段階における心理的課題について学びます。	・人間の特質を理解する。 ・青年期の位置づけと心理的特徴を理解する。 ・防衛機制の働きを理解し、欲求を調整しながら、目標達成を図る意味を理解する。 ・生きることの意味について様々な視点から考えることができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
5		2章 人間としての自覚 ①ギリシアの思想 ②キリスト教				A・B・C A・B・C
6		③イスラーム				A・B・C
	考査		1			
7	第二回 考查範囲	④仏教	17	人間の歴史に大きな影響を及ぼした、根源思想とその特徴について学びます。	・仏教思想と信仰を理解できる。 ・中国の思想とその影響について理解する。	A・B・C A・B・C
8		⑤中国の思想				A・B・C
9		3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統 ②外来思想の受容				A・B・C A・B・C
	考査		1			
10	第三回 考查範囲	③町人意識のめざめと庶民思想 ④西洋思想との出会い	16	近代的な科学思想の源泉とその影響について学ぶとともに、人間と社会とのより良き関わり方について考えます。	・日本人の庶民思想や勤労倫理の特質とその根源について理解する。 ・文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたか把握する。	A・B・C A・B・C
11		4章 現代に生きる人間の倫理 ①人間の尊厳 ②近代の科学革命と自然観 ③自由で平等な社会の実現				A・B・C A・B・C A・B・C
12	第四回 考查範囲	④人間性の回復と主体性の確立	16	生命や環境に関連する倫理的課題について学びます。	・社会主義思想とその発展と現状について理解する。 ・現代の思想とその歴史的背景について理解できる。 ・生命への畏敬を踏まえ、社会への関わり方を考えることができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
1		⑤現代の思想と人間像 ⑥生命への畏敬と社会参加				A・B・C
2		5章 現代の諸課題と倫理 ①生命の問題と倫理課題				A・B・C
	考査		1			
3		②環境の問題と倫理課題			・環境をめぐる倫理的課題を理解し、考えをまとめることができる。	A・B・C

1 年 数学 I

○ 学 習 の ね ら い

方程式と不等式，2 次関数および図形と計量について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習とは，「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。わずかな時間しか予習時間がとれない場合でも，次の授業で学習すると思われる箇所全体に目を通しておくことは最低限必要です。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解くまでのことは求めません。その代わり，前回学んだことをしっかり思い出し，次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通り問題を解いて正解することもあります，真の実力とはいえません。理解できた，という実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。板書事項だけではなく，先生の発言で大事なことはしっかりメモし，後から見ても十分活用できるノート作りを心掛けましょう。

3 授業後 ～ 復習 ～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く問題を解くことも大事ですが質も重視して下さい。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は，のちに大きな力となります。

○ 評 価 の 方 法

考查は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で，問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み，実力を確かなものにして臨んで下さい。

定期考查の割合は 70 % 以上を原則として，下記の観点に基づいて 100 点満点で総合的に評価を行います。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	の学	発	提	小	定
		観	表	出	テ	期
		習	等	物	ス	考
		察			ト	査
		状				
		況				
関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心を持ち，それらを数学的に探求しようとしている。	○	◎	○		
数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察するとともに，導き出した考え方を的確に表現・処理している。	○		◎		◎
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する方法や，推論の技能などを身につけている。	○		○	○	○
知識・理解	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，知識が身につけている。	○			◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学 I	1年 全クラス	3	数学 I Standard (東京書籍)	WIDE数学 I + A (東京書籍)	105

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	1章 数と式 1節 式の計算	14	1. 整式 2. 整式の加法・減法・乗法	単項式・多項式・次数・係数などの意味を理解する 整式について理解し、同類項の整理ができる 分配法則を用いて、公式を理解し活用することができる 置き換えなどにより、展開の工夫をすることができる	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
5		2節 実数	6	1. 実数 2. 根号を含む式の計算	共通因数や展開公式に着目し、因数分解ができる たすきがけや、置き換えなど色々な因数分解ができる 自然数・有理数などの意味を理解し、数の分類ができる 平方根について理解し、根号を含む式の計算、 有理化ができる	A・B・C A・B・C A・B・C
6		3節 1次不等式	10	1. 不等式の性質 2. 1次不等式 3. 1次不等式の応用	不等式の意味を理解し、範囲を数直線で表現できる 不等式の性質を理解し、大小関係を不等式で表現できる 1次不等式について、解の意味を理解し解くことができる 連立不等式の意味を理解し、連立不等式を解くことができる 絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考 査		1			
7	第二 回 考 査 範 囲	2章 集合と論理 1節 集合 2節 命題と論証	5 6	1. 集合 2. 命題と条件 3. 論証	集合・要素などについて、その定義と表現について理解する 共通部分・和集合・補集合などの概念を理解する 命題について理解し、真偽の判断ができる かつ・またはの表現、対偶などを学び、対偶・背理法を活用した証明法について理解する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
8		3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ	13	1. 関数 2. 2次関数	1次関数について学び、グラフをかくことができる 2次関数について学び、グラフをかくことができる	A・B・C A・B・C
9		考 査	1			
10	第三 回 考 査 範 囲	2節 2次方程式と2次不等式	13	2. 2次関数 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 1. 2次方程式 2. 2次方程式の実数解の個数 3. 2次関数のグラフと x軸の共有点 4. 2次不等式 5. 2次不等式の応用	2次関数について学び、グラフをかくことができる 2次関数の最大値・最小値を求めることができる 与えられた条件から2次関数を決定することができる 2次方程式について、解の意味を理解し解くことができる 2次方程式の解き方を理解し、実数解の個数を判別できる 2次関数のグラフとx軸との共有点の個数を求める ことができる 2次不等式について、解の意味を理解し解くことができる 与えられた条件を2次不等式で表現し解くことができる	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11		考 査	1			
12	第四 回 考 査 範 囲	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 2節 三角比の拡張 3節 三角形への応用	8 6 7	1. 直角三角形と三角比 2. 直角三角形の辺と角 3. 三角比の相互関係 1. 三角比と座標 2. 三角比の性質 1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 三角形の面積 4. 空間図形の計量	三角比について、定義を理解し、値を求めることができる 三角比の値から、角を求めることができる 相互関係の式を利用し、三角比の値を求めることができる 角を鈍角まで拡張した場合の三角比の定義を理解できる 角を鈍角まで拡張した場合の三角比の性質を理解できる 正弦定理の意味を理解し、活用することができる 余弦定理の意味を理解し、活用することができる 三角比を用いて、三角形の面積を求めることができる 三角形の辺や角を、与えられた条件から求めることができる 正弦定理・余弦定理を空間図形の計量に応用できる	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
1		5章 データの分析 1節 データの整理	3 3	1. データの整理 2. データの代表値	平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、 それぞれの特徴について考察することができる	A・B・C A・B・C
2		考 査	1			
3	考 査	2節 データの相関	7	3. データの散らばり 1. 相関関係 2. 相関係数	四分位数や箱ひげ図について理解する データの範囲や分散・標準偏差について理解する 散布図の意味を理解し、データを図にまとめることができる 相関係数についてその意味を理解する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C

1 年 数学A

○ 学習のねらい

「場合の数と確率」, 「整数の性質」, 「図形の性質」について基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

○ 学習方法

1 心得

中学校で学んだ内容にも触れますが, 高校での学習内容は中学と比べてより抽象的になり, 理解するためには時間と努力を要します。授業をしっかりと聞き, 自主的に取り組むことが一番大切です。「苦手だから」や「難しいから」といって, 投げ出すことのないよう, 粘り強く取り組みましょう。

2 授業の前（予習）

予習では, 「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。部活動等で疲れてしまっても, 短い時間でも予習は行ってください。次の授業で進む分野に目を通しておくことは習慣にしてください。予習の段階で教科書の練習問題をすべて解くまでのことは求めません。前回学んだことをしっかり思い出し, 次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

3 授業中（注意点）

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通りに問題を解いて正解となることもあります。それは真の実力ではありません。「理解できた」という実感を持つまで取り組むことが大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。とりあえず「板書事項だけをノートに写しておこう」という人もいますが, それだけでは不十分です。大事なことはしっかりメモし, 時間をおいて後から見ても自分が理解できるノート作りをしましょう。

4 授業後（復習）

授業で分からなかったところをそのままにしておく次の授業も当然分かりません。空いている時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。また, 多くの問題を解くことも大事ですが質も重視する必要があります。進学を目指す人は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は, 後に大きな力となります。

○ 評価の方法

定期考査による評価は全体の70%以上を原則として, 以下の観点に基づいて100点満点で総合的に評価を行います。考査は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み, 実力を確かなものにして臨んで下さい。また, 各観点は平素の取り組みを重視して評価を行います。意欲を持って取り組むことを期待します。

※記号の凡例（◎：特に重視する, ○：重視する）

観 点	身に付けて もらいたい資質・能力 は観点別に以下のとおりです	評価項目				
		の 学 習 状 況 観 察	発 表 な ど	成 果 物	小 テ ス ト	定 期 考 査
関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心を持ち, それらを数学的に探究しようとしている。	◎	○	◎	○	◎
数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察するとともに, 考え方を的確に表現・処理している。	◎	○		○	◎
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する方法や, 推論の技能等を身に付けている。	○			○	◎
知識・理解	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	○		○	○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学A	1年 全クラス	2	数学A Standard (東京書籍)	Standard Buddy WIDE 数学 I + A (東京書籍)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	1章 場合の数と確率	16	① 集合の要素の個数	集合について理解し、集合の要素の個数を求める。	A・B・C
5		1節 集合と場合の数		② 数え上げの原則	樹形図による数え上げの事例を通して、樹形図が順列や組合せの基本であることを理解する。	A・B・C
6				③ 順列	順序をつけたものの数え方について理解し、順列の総数を求める。	A・B・C
6	考 査		1			A・B・C
7	第二 回 考 査 範 囲	2節 確率とその基本性質	8	① 事象と確率	試行と事象、事象の確率について理解し、確率について理解を深める。	A・B・C
8		3節 いろいろな確率	8	② 確率の基本性質	様々な事象や確率の基本性質、和事象の確率、余事象とその確率について理解し、その確率を求める。	A・B・C
9				① 独立な試行の確率	独立の定義を理解し、独立な試行の確率を求める。	A・B・C
9	考 査		1			A・B・C
10	第三 回 考 査 範 囲	2章 整数の性質		② 反復試行の確率	反復試行の確率について理解し、その確率を求める。	A・B・C
11		1節 約数と倍数	7	③ 条件つき確率	条件つき確率と確率の乗法定理を理解し、その確率を求める。	A・B・C
11		2節 ユークリッドの互除法と不定方程式	7	① 約数と倍数、素因数分解	約数や倍数の定義を理解する。また、倍数の判定法や素因数分解の活用について考察する。	A・B・C
12	第四 回 考 査 範 囲	3節 整数の性質の利用	2	② 最大公約数と最小公倍数	素因数分解を用いた最大公約数や最小公倍数の求め方を理解する。また、それらの関係性について理解を深める。	A・B・C
1				① 除法の性質と整数の分類	除法の性質から、余りによって整数が分類できることを理解する。また、身近な事例を通して理解を深める。	A・B・C
2				② ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法の原理を理解し、それを用いて2つの整数の最大公約数を求める。	A・B・C
3	考 査		1	③ 不定方程式	数学的に考察することで不定方程式の整数解を求める。	A・B・C
4	第五 回 考 査 範 囲	3章 図形の性質		① 記数法	記数法の仕組みを理解し、2進法からn進法までの相互変換や計算ができる。	A・B・C
5		1節 三角形と比	6	② 小数と分数	既約分数が有限小数になる条件を理解し、循環小数について理解を深める。	A・B・C
6		2節 円の性質	6	① 三角形と比	数直線上における内分と外分を理解する。また、三角形の内角や外角の二等分線と比について定理を理解する。	A・B・C
7	第六 回 考 査 範 囲	4節 空間図形	4	② 三角形の重心・外心・内心	三角形の重心・外心・内心についての定理を理解する。	A・B・C
8				③ 三角形の比の定理	チェバの定理、メネラウスの定理を理解する。	A・B・C
9				① 円周角の定理	円周角の定理を理解する。	A・B・C
10	第七 回 考 査 範 囲			② 円に内接する四角形	円に内接する四角形についての定理を理解する。	A・B・C
11				③ 円と接線	円と接線についての定理を理解する。	A・B・C
12				④ 接線と弦のつくる角	接線と弦のつくる角についての定理を理解する。	A・B・C
1	第八 回 考 査 範 囲			⑤ 方べきの定理	方べきの定理を理解する。	A・B・C
2				⑥ 2つの円	2つの円の位置関係や、共通接線について理解する。	A・B・C
3				① 空間における直線と平面	空間における直線と平面、平面と平面についての位置関係やそれらのなす角について考察する。	A・B・C
4	第九 回 考 査 範 囲			② 直線と平面の垂直	直線と平面の垂直について考察し、三垂線の定理を理解する。	A・B・C
5				③ 多面体の性質	正多面体について、面の形、面の数、頂点の数、辺の数を考察する。	A・B・C
6						A・B・C
7	考 査		1			A・B・C
8	第十 回 考 査 範 囲	3節 作図	1	① 基本的な作図	定規とコンパスを用いて作図の基本を身に付ける。	A・B・C
9				② 長さの作図	積の作図、商の作図、平方根の作図の手順を理解する。	A・B・C
10						A・B・C

1 年 生物基礎

○ 学 習 の ね ら い

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養うことをねらいとする。高校で初めて学習する理科科目です。生物に限らず、身の回りの科学というものにも目を向けてみよう。本や新聞、関連するテレビ番組なども意識して見るようにし、知識を得るだけでなく、様々なことに疑問を感じられるようになるろう。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ① 予め、教科書の太字の語句をチェックし、その意味をとらえておくこと。
- ② 宿題を出すこともあります。出された宿題は、確実に提出しましょう。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

授業に集中し、話をしっかり聞き取ってその時間内で理解することが大切です。休まない、寝ないは当たり前。ノートは板書事項だけではなく、先生が説明したことで重要なところや忘れそうなところもしっかりとメモしておきましょう。プリント類はきちんと整理し、ファイルにとじるか、ノートに貼付すること。

※実験について

- ・実験の時は早めに移動し、準備して待つこと。入室したら椅子を下ろし、白衣を着用。安全面を考慮し、白衣のボタンは必ず閉めること。
- ・説明を良く聞き、頭に手順を入れてから行動すること。また常に指示が聞こえる静かさを保ちながら実験すること。実験の道具や材料は高価なものばかり。勝手な行動は厳禁です。
- ・実験レポートは指示された期日を守って提出すること。空欄がある場合、期限に遅れた場合は観点別の評価点から減点します。
- ・実験を欠席した時は、後日行われる追実験に必ず参加すること。追実験は内容により放課後または昼休みに行います。追実験に欠席した場合は、その実験の評価は0点となります。

3 授業後 ～ 復習 ～

教科書の太字の語句をノートに書き出し、語句の意味をまとめること。各期の間または、夏期・冬期休業明け等の小テストに向け、問題集を活用し、復習をしっかり行うこと。基本的な事項は暗記が必要。覚えるまで何度も取り組むこと。

○ 評 価 の 方 法

各期の評価は、下記の観点に基づいて100点満点で算出します。このうち、定期考査の割合は70～80%を原則とします。

考査では、学習した内容がきちんと定着しているか、自ら考え判断することができるか等について評価を行う。授業中話したことやノート、教科書、問題集、プリントなどをよく見直し、専門用語等はきちんと漢字で書けるようにしておくこと。ひらがな・誤字は減点とします。

また、提出物（ノート、課題、実験レポートなど）、小テスト、授業態度、出席状況等から学習に対する関心・意欲等を重視します。※欠点者には、再指導を受ける権利がありますが、実験レポート、ノート等の提出課題が完全に提出されていることが条件となります。きちんと提出すること。

観 点	評価項目	学習 状態 の観 察	実 験 等	提 出 物	小 テ ス ト	定 期 考 査
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。					
関心・意欲・態度	生物の構造や生命維持のしくみに関心を持ち、それらを積極的に学ぼうとしている。	○	◎	○	◎	○
思考・判断・表現	生物の事物・現象の中に疑問を見だし、科学的に考えるとともに、疑問点や自分の考えを的確に表現している。	○	○	◎		◎
観察・実験の技能	実験・観察を行い、生物の事物・現象を探究することができる。また実験器具の操作を的確に行うことができる。	○	◎	○		○
知識・理解	生物のからだの構造や各器官の働き、基本的概念を理解するとともに、知識が身についている。	○		○	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	生物基礎	1年 全クラス	2	高等学校 改訂 生物基礎 (第一学習社)	ニューステージ新生物図表(浜島書店) クリア生物基礎(第一学習社)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. 細胞とエネルギー	7 8	地球には多種多様な生物が生活している。一方で、どの生物も生物としての共通した特徴を学習する。生命活動に必要なエネルギーと代謝について学習する。 実験:顕微鏡による細胞観察	生物の多様性と共通性について理解する。 ATPの構造、および働きについて、また光合成と呼吸のしくみについて理解する。	A・B・C
5		第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝現象と遺伝子	2	遺伝情報を担う物質としてのDNAの構造や発見の歴史について学習する。 実験:DNAの抽出	遺伝情報を担う物質としてのDNAの構造や特徴について理解する。	A・B・C
6						A・B・C
	考 査		1			
7	第二 回 考 査 範 囲	2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報とタンパク質の合成	5 5	DNAは複製され分配されることにより遺伝情報が伝えられること、またDNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることについて学習する。 実験:だ腺染色体の観察	細胞分裂時のDNAの複製について理解する。 DNAからタンパク質が合成される過程を理解する。	A・B・C
8		第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 1. 体液とその働き	6	陸上で生活する生物が、体液によって安定した生命活動を維持できるしくみについて学習する。	体液の種類およびその循環を理解する。 特に血液の成分とその働きについて理解する。	A・B・C
9						A・B・C
	考 査		1			
10	第三 回 考 査 範 囲	2. 生体防御 3. 体内環境の維持のしくみ	6 6	生体防御のしくみや免疫をつかさどる器官の働きを学習する。 体内環境を維持するためのしくみについて、学習する。	生体防御のしくみや細胞性、体液性免疫の違い、および免疫の応用について理解する。 腎臓と肝臓の働きについて理解する。 神経とホルモンの働きについて理解する。	A・B・C
11		第3編 生物の多様性と生態系 第4章 バイオームの多様性と分布 1. 生物の多様性とバイオーム 2. バイオームの形成過程	2 3	環境に適応した生物集団であるバイオームについて学習する。またその形成と植物の環境適応について学習する。	陸上には様々な植生が見られること、また気候によって様々なバイオームが成立していることを理解する。	A・B・C A・B・C
12			1			
	考 査		1			
1	第四 回 考 査 範 囲	3. バイオームとその分布 第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 生態系のバランスと保全 3. 生態系の保全	4 4 4 4	気温や降水量とバイオームの関連について学習する。 バイオームを構成する生物どうしの関係性を学習する。 地球が直面している環境問題について学習する。	世界のバイオームについて理解し、特に日本のバイオームについて理解を深める。 生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系の保全の重要性を認識する。 酸性雨や地球温暖化などのしくみや改善策を理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
2						
3						
	考 査		1			
		問題演習・次年度の準備				

1 年 体育 (男子)

○ 学 習 の 目 的 と ね ら い

- 1 基本的な運動技術を身につけ、運動の楽しさや喜びを味わうことが出来る。
- 2 常に自分の体の状態や変化を観察できるようになる。
- 3 スポーツを通しての人間関係や、ルールやマナーの重要性を知る。

○ 学 習 方 法 と 授 業 の 注 意 点

- 1 授業前 ～ 予習 ～
・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。
- 2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～
・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
- 3 授業後 ～ 復習 ～
・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○ 評価の方法

考查・評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて 100 点満点で行う。
- ・運動の技能、知識・理解：①技能の修得 ②実技テスト ③ゲームでの評価（動き・知識の理解等）
④取組みで 5 割とする。
- ・授業態度等：①関心・意欲・態度・思考・判断・表現を観点とする。
②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
③出席状況（欠席・遅刻・早退）病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価する。
上記①, ②, ③で 5 割分とし、総合的に判断して行う。
- ・その他： 基本的に授業の 1/3 欠席＝49 点以下、1/2 欠席＝39 点以下、2/3 欠席＝19 点以下になる。

※評価の観点は以下のとおり。 記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学習 状態 の 観 察	実技 ス キ ル	実技 テ ス ト	出席 状 況
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。	◎	◎	○	◎
思考・判断・表現	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題解決を目指して考え、判断している。	◎	○	○	◎
運動の技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につける。	○	◎	◎	◎
知識・理解	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	◎	○	○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	1学年 男子	3単位 のうち 2単位	最新高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	オリエンテーション スポーツテスト 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	1 4	授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等の説明などを行う	授業内容や評価方法について理解する 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるか理解する 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
5		体操・集団行動 体づくり運動	5 6	ラジオ体操二人組の柔軟体操等 4列縦隊の列の増減、行進、駆け足 短縄	ラジオ体操のやり方を理解する。 一つの動きを集団であわせる。 これから3年間運動するにあたり、瞬発力や持久力を身につけさせる。	A・B・C A・B・C
6		サッカー初級 (体育理論を含む)	6	パス、ドリブル、シュートについて	基本的なパス、ドリブル、シュートができる。 チームワークを養う。	A・B・C
6	考 査					
7	第二 回 考 査 範 囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	6 12	馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルールなどの説明	基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C
8		水泳		競泳の方法にや安全について 水慣れ、バタ足、ビート板を使用した練習	水の事故への対処法や泳ぎの基本を理解する。 本格的な泳法に入る前に基本を身につける。	A・B・C
9		ソフトボール初級 (体育理論を含む)		基本技術の習得とルールの理解について	ルールの理解とキャッチボール・バッティング等の基本技術ができるようになる。	A・B・C
9	考 査					
10	第三 回 考 査 範 囲	バレーボール初級 (体育理論を含む)	18	基本技術の習得とルールの理解について	ルールの理解とアンダー・オーバーレシーブやサーブをスムーズに行うことができる。	A・B・C
11						
11						
12	第四 回 考 査 範 囲	バスケットボール初級 (体育理論を含む)	8	基本技術の習得とルールの理解について	ルールの理解とドリブル・パス・シュートなどをスムーズに行うことができる。	A・B・C
1						
2		ニュースポーツ				
2	考 査					
3						

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育(剣道)	1学年 男子	3単位 のうち 1単位	最新高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	35

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	礼法 着・立礼・正座・座礼	2	授業内容について 正しい礼法を身に付けさせる。精神集中や 心のコントロールを体験させる。	伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承してその発展を 図り剣道の理念に基づき高い水準の剣道を目指す。剣 道を楽しく受け止められるよう興味や関心を高める。	A・B・C
5		基本動作 構え・足さばき 素振り	4	基本動作を習得させ、剣道の立ち姿を身に 付けさせる。体幹を鍛える。		
6		考查				
7	第二回 考查範囲	基本打ち 正面打ち 左右面打ち 右小手打ち 胴打ち 切り返し	3 2 2 2 2	一本になる条件をみだして、下記のことを 習得する。充実した氣勢、刃筋正しく、適正 な姿勢、残心あるものとする。	身構えと気構えを理解する。足の運び方を習得する。竹 刀操作、手の内の作用を刃筋正しく理解する。	A・B・C
8						
9		考查				
10	第三回 考查範囲	応用技 二段打ち 三段打ち 相手の技に対しての対応 引き技	2 2 2 2	相手を見失った、自分勝手な打突にな らないように気をつけさせる。	相手の打突に対する瞬間的な対応動作の発展につい て練習する。	A・B・C
11						
		考查				
12	第四回 考查範囲	稽古	5	お互いの協力を大事にし、様々な技が 繰り出されるような、戦いを心がける。 正しい審判を学習し、不公平のない運用 を心がける。	攻防の間合いをとって打突が有効に行われるように 協力して稽古する。 段階ごとに指導効果を確認する意味での試合にも 配慮する。 試合規則の運用や審判法についても学び、試合で、 審判ができるようになる。	A・B・C
1		試合及び審判法	4			
2		考查				
3		新年度準備	1			A・B・C

1 年 体育 (女子)

○ 学 習 の 目 的 と ね ら い

- 1 基本的な運動技術を身につけ、運動の楽しさや喜びを味わうことが出来る。
- 2 常に自分の体の状態や変化を観察できるようになる。
- 3 スポーツを通しての人間関係や、ルールやマナーの重要性を知る。

○ 学 習 方 法 と 授 業 の 注 意 点

- 1 授業前 ～ 予習 ～
・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。
- 2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～
・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
- 3 授業後 ～ 復習 ～
・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

考查・評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。
- ・運動の技能、知識・理解：①技能の修得 ②実技テスト ③ゲームでの評価（動き・知識の理解等）
④取組みで5割とする。
- ・授業態度等：①関心・意欲・態度・思考・判断・表現を観点とする。
②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
③出席状況（欠席・遅刻・早退）病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価する。
上記①, ②, ③で5割分とし、総合的に判断して行う。
- ・その他： 基本的に授業の1/3欠席＝49点以下、1/2欠席＝39点以下、2/3欠席＝19点以下になる。

※評価の観点は以下のとおり。 記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学習 状態 の 観 察	実技 ス キ ル	実技 テ ス ト	出席 状 況
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。	◎	◎	○	◎
思考・判断・表現	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題解決を目指して考え、判断している。	◎	○	○	◎
運動の技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につける。	○	◎	◎	◎
知識・理解	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	◎	○	○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	1学年 女子	3	最新高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	105

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	オリエンテーション スポーツテスト	1 4	授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等の説明などを行う	授業内容や評価方法について理解する 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるか理解する	A・B・C A・B・C
		体育理論(各種目ごと)			各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C
5		体操・集団行動	5	ラジオ体操二人組の柔軟体操等 4列縦隊の列の増減、行進、駆け足	ラジオ体操のやり方を理解する。 一つの動きを集団であわせる。	A・B・C
		体づくり運動	5	短縄	これから3年間運動するにあたり、瞬発力や持久力を身につけさせる。	A・B・C
			3	長縄	各運動を行ううえでバランスなどの巧緻性を身につける。チームワークを養う。	A・B・C
6		ソフトテニス初級 (体育理論を含む)	10	基本技術の習得とルールの理解について	ルールの理解とフォアハンドストロークやサーブをスムーズに行うことができる。	A・B・C
	考査					
7	第二 回 考 査 範 囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)		馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルールなどの説明	基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C
		水泳	8	競泳の方法にや安全について 水慣れ、バタ足、ビート板を使用した練習	水の事故への対処法や泳ぎの基本を理解する。 本格的な泳法の前に必要な基本技能を身につける。	A・B・C
8						
9		フットサル初級 (体育理論を含む)	17	基本技術の習得とルールの理解について	試合を行う前のパス、シュート、ディフェンスなどの基本的な動き方ができる。	A・B・C
	考査					
10	第三 回 考 査 範 囲	バレーボール初級 (体育理論を含む)	26	ボールの蹴り方からパスの連携 キック、トラップ、パスについて	ルールの理解とアンダー・オーバーレシーブやサーブをスムーズに行うことができる。	A・B・C
11						
12	第四 回 考 査 範 囲	バスケットボール初級 (体育理論を含む)	17	基本技術の習得とルールの理解について	ルールの理解とドリブル・パス・シュートなどをスムーズに行うことができる。	A・B・C
1						
2		ニュースポーツ	9	各種目の基本技術の習得とルールの理解について	興味のある種目を選択し、身体の様々な部位を動かすことができる。	A・B・C
3						

1年 保健

○学習の目的とねらい

- 1 社会の一員として健康の問題を考える力を養う。
- 2 健康的な生活習慣を身につける。
- 3 健康に好ましい環境を作るための知識と能力を高める。

○学習方法と授業の注意点

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ・事前に教科書を読み、内容を把握すること。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ・教科書、保健ノートと事前に配布される教材プリントを比較・確認しながらその要点を捉えること。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・プリント・ノートへの記入漏れなどがいないか確認する。

○評価の方法（考査のポイント・注意事項と平常点の付け方）

- ・考査は第2回・第4回の計2回行う。
- ・下記の観点に基づいて100点満点で行う。

※評価の観点は以下のとおり。 ※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学習状態 の観察	提出物	定期考査	出席状況
関心・意欲・態度	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとしている。	◎	○	◎	◎
思考・判断	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決をめざして総合的に考え，判断し，それらを表している。	◎	○	◎	◎
知識・理解	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	◎	○	◎	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健体育	保健	1年 全クラス	1	最新高等保健体育 (大修館書店)	最新高等保健体育ノート (大修館書店)	35

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考 査 範 囲	オリエンテーション	1	1年間の予定授業の進め方等を説明する	1年間の流れを理解する。	A・B・C
		現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 健康に関する意志決定・行動選択と環境作り 4 生活習慣病とその予防	1 1 1 2	健康について様々な考え方について 健康水準の変化とその背景について 健康に関する意思決定・行動選択やヘルスプロモーションについて 生活習慣病とその原因について 生活習慣病の予防法について	健康は様々な要因から成立していることを理解する 我が国の現在の健康問題を理解する 健康は自分自身の意志・行動で変化することを理解する 生活習慣病にならないためにはどのような生活をすればよいか理解する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
5						
6	考 査					
7	第二回 考 査 範 囲	5 食事と健康 6 運動・休養と健康 7 喫煙と健康 8 飲酒と健康 9 薬物乱用と健康	2 2 2 2 2	健康的な食事のポイントについて 運動や休養の重要性について 喫煙による健康影響について 飲酒による健康影響について 薬物乱用が身体に及ぼす影響について	栄養素やエネルギーの取り方について理解する 運動や休養、睡眠の重要性について理解する 喫煙が身体に及ぼす影響について理解する 飲酒による健康影響や社会問題について理解する 薬物の影響や社会問題について理解する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
8						
9						
	考 査		1			
10	第三回 考 査 範 囲	10 感染症とその予防 11 性感染症とエイズとその予防 12 欲求と適応機制 13 心身の相関とストレス 14 心の健康のために	2 2 1 2 1	感染症の種類や予防法について 性感染症やエイズの予防について 欲求不満や葛藤について 心身相関と心身症について ストレスへの対処法や自己実現について	予防の原則と社会の取り組みについて理解する 性感染症、エイズの正しい知識について理解する 大脳の働きや様々な適応機制について理解する 身体的影響が精神に及ぼす影響について理解する ストレスの原因や対処法について理解する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11						
	考 査					
12	第四回 考 査 範 囲	15 交通事故の現状と要因 16 交通事故を防ぐために 17 応急手当の意識とその基本 18 日常的な応急手当 19 心肺蘇生法の原理とおこない方	1 1 2 2 2	交通事故の特徴や要因について 安全な交通社会づくりについて 応急手当の基本的手順について 怪我や熱中症の基本的対応について 心肺蘇生の意義、実施法について	交通事故の状況、要因について理解する 交通安全の為に個人ができることについて理解する 応急手当の意義や手順について理解する 怪我や熱中症などの対処法を理解する。 心肺蘇生法の実施法を理解し、実践する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
1						
2						
	考 査		1			
3		新年度への準備	1	新年度の授業内容について	新年度の授業内容を理解する	A・B・C

1 年 音楽 I

○ 学 習 の ね ら い

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。音楽 I では、音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についても理解を深める。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習はありませんが、小中学校で学習してきた音楽の基礎基本は必要です。覚えていること等は授業の中で活かせるようにしましょう。また、それぞれの分野（歌唱・器楽・創作・鑑賞）での取り組みに関して、自分でできること、歌うならば姿勢や声量など意識して取り組むようにしてください。遅刻は厳禁です。時間をよく見て音楽室へ移動してください。

2、授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ① 教科書・筆記用具を忘れないようにすること。
- ② 実技ですので、取り組み姿勢や先生からの指示や注意事項をきちんと聞くこと。
- ③ 楽器を伴う授業があります。楽器類は大切に扱うようすること。
- ④ 実技演奏もあります。授業で取り組んだ成果を出してください。
- ⑤ レポート提出もあります。期日を守って提出すること。

3、授業後 ～ 復習 ～

授業で取り組んだ内容を頭の片隅に記憶しておきましょう。そしてその時に感じたことや思い、難しい部分などを覚えて、次回に生かしてください。
「宿題」になる課題もありますので、忘れずに。

○ 評 価 の 方 法

考査は実施しません。実技練習等への取り組み状況、レポート提出、実技などで評価します。期ごとの授業分野内容によって異なるところがありますが、おおむね実技点が40点～60点、実技練習等への取り組み状況が30～40点、レポート提出点が10～20点となります。

※評価の観点とは以下のとおり。
※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する，△：あまり重視しない）

観 点	評価項目	学習 状態 観察	実技 練習 取り 組み	提出 物	小 テ ス ト	実 技 テ ス ト
	身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。					
音楽への関心・意欲・ 態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	○	◎	○	△	◎
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じしながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	○	◎	◎	△	◎
音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	○	◎	△	◎	◎
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じしながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	○	△	○	◎	△

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
芸術	音楽Ⅰ	1年 選択	2	MOUSA 1 教育芸術社	なし	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考 査 範 囲	①明るくのびのびと歌おう ①ー1 斉唱「校歌」 ①ー2 2部合唱「翼をください」	6	①校歌の歌詞を覚え、のびのびと歌う。 ②姿勢や発声に気を配りながら歌う。 ③曲の雰囲気をつかみ、歌詞を理解し表現して歌う。	①歌詞を覚え、のびのび歌えるようにする。 ②姿勢や発声に気を配りながら歌えるようにする。 ③曲の雰囲気をつかみ、歌詞を理解し表現して歌えるようにする。	A・B・C
5		②ドイツ歌曲を歌おう ②ー1 「野ばら」(シューベルト) ②ー2 「野ばら」(ヴェルナー) ③世界の音楽を聴こう ③ー1 世界の音楽鑑賞	8	①ドイツ語の発音に気をつけながら歌う。 ②曲の情景を思い浮かべながら表現の工夫ができるように歌う。	①ドイツ語の発音に気をつけて歌えるようにする。 ②曲の情景を思い浮かべながら歌えるようにする。	A・B・C
6		④ミュージカルの音楽を演奏しよう ④ー1 「サウンドオブミュージック」鑑賞 ④ー2 歌唱「サウンドオブミュージック」 ④ー3 リコーダー「ひとりぼっちの山羊飼い」	4	①世界の音楽を鑑賞し、その国の地理や歴史、文化などを考えながら鑑賞す	①地理や歴史、文化と密接に関わっていることに気づき鑑賞する。	A・B・C
7	第二回 考 査 範 囲	⑤日本の伝統楽器「箏」を演奏しよう ⑤ー1 さくら ⑤ー2 うさぎ ⑤ー3 荒城の月	なし			
8		⑥オノマトペで創作しよう ⑥ー1 オノマトペでリズム創作	18	①英語の発音に気をつけながら、曲の持つ雰囲気に合わせて歌う。 ②リコーダーの演奏法を理解し、意欲的に演奏する。 ③ミュージカルの内容にあわせ、表現豊かに演奏する。	①英語の発音に気をつけながら歌うようにする。 ②リコーダーの演奏法について覚える。 ③表現豊かな歌唱と演奏に興味関心を持たせるようにする。	A・B・C
10		⑦作曲家「モーツァルト」について学習しよう ⑦ー1 「アマデウス」鑑賞 ⑦ー2 モーツァルトについて	なし			
11	第三回 考 査 範 囲	⑧ギターの演奏法を覚えよう ⑧ー1 音階 ⑧ー2 組曲「惑星」から木星	10	①箏を演奏体験し、音色と響きを味わう。 ②演奏方法を学習し、意欲的に取り組む。 ③日本独自の箏曲に触れることにより、幅広い音楽の世界を知る。	①日本の音を知覚し、味わわせる。 ②演奏方法を理解し、演奏表現できるようにする。 ③五音音階を知り、世界の音楽の幅広さを理解する。	A・B・C
12		⑨これまでの授業のまとめ 新年度に向けて	7	①オノマトペのもつリズム感を味わう。	①オノマトペのもつリズム感やアクセントの特徴を生かした創作を行う。	A・B・C
1			なし			
2	第四回 考 査 範 囲	⑩作曲家「モーツァルト」について学習しよう ⑩ー1 「アマデウス」鑑賞 ⑩ー2 モーツァルトについて	5	①作曲家モーツァルトの人間像・生涯について知る。 ②モーツァルトの作品の豊かな音楽性を感じる。 ③モーツァルトの生きた時代の社会情勢と音楽との関係についても学習す	①人間像・生涯について学習し、理解する。 ②様々な作品を通して、豊かな感性を感じさせる。 ③音楽の歴史の中にモーツァルトの存在が大きな位置をしめていることを理解する。	A・B・C
3			12	①ギターの名称・演奏法を知る。 ②音階・旋律を覚える。 ③ギターのコード(簡易コード)を学習し、演奏する。	①名称・演奏法を知り、興味関心を持たせるようにする。 ②音階・旋律を演奏できるようにする。 ③平易なアンサンブル演奏ができるようにする。	A・B・C
3			なし			

1 年 美術 I

○ 学 習 の 目 的 と ね ら い

- ・美術の幅広い創造的活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。
- ・感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～予 習～

教科書等の予習は必要ありませんが、自然や生活の中の造形の美しさを感じ取ったり、優れた絵画や映像、デザインに触れる機会を積極的に持つ等、日頃から自己の感性を磨くことを薦めます。また、課題の前に関連する分野を様々な媒体を使って自分で調べてみることもアイディアを出すヒントとなります。

筆記用具や課題ごとに指示された用具は授業の前に各自で準備するようにしてください。遅刻は厳禁です。

2 授 業 中 ～授業中の注意点～

授業では多様な表現を学び、自分の作品として仕上げていきます。常に“主体的に”集中して授業に取り組み、完成までの見通しを持って制作することが何より大切です。また、用具の手入れや後片付け、身の回りの清掃等は声かけがなくともしっかりと行ってください。夏場等の指示された時以外は飲食物の持ち込みは禁止となります。

2 授 業 後 ～復 習～

各課題の最後に、各自の意図や意欲をみる「コンセプト記入用紙・自己評価票」の記入があります。出来上がった作品の完成度だけでなく、どれだけ考えて(意図を持って)制作したかということも作者の制作過程を見る上で重要なことと考えています。また、次年度の美術Ⅱの授業の最後に、2年間の取り組みを「ポートフォリオ」として作品化する課題がありますので、美術Ⅱを選択する生徒は作品やコンセプト用紙を保管、または写真に撮っておくようにしてください。

○ 評 価 の 方 法

各期の課題(提出作品、ワークシート、小テスト、アイディアスケッチ、エスキース、コンセプト用紙(含自己評価票))と授業への取り組み(課題理解、関心・意欲・態度、主体性、準備・片付け等)を100点満点で評価する。

観 点	評価項目 身につけたい学力を観点別に整理し、以下に示します。	提出作品、アイ ディアスケッチ、 エスキース	ワークシート、 小テスト、コン セプト用紙	授業への 取り組み 状況
美術への関心・ 意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	◎	◎	◎
発想や構想の 能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	◎	◎	◎
創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫している。	◎	◎	◎
鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	○	◎	◎

※記号の凡例 (◎:特に重視する, ○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
美術	美術 I	1年 選択	2	高校生の美術1 (日本文教出版)	なし ()	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解(実践)できた B:まあまあ C:理解(実践)できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	ガイダンス	2	年間計画説明/美術の各分野について ・造形基礎理論(色彩・構図・感覚) ・鑑賞(教科書・映像作品鑑賞)	・美術の各分野に対する自身の興味や傾向を分析し、自己理解を図る。 ・感覚テスト等で色彩や構図の効果を体感し、各自が造形理論をフィードバックする。 教科書や映像の作品について、深く考察し、その良さや美しさについて自分の言葉で論述する。	A・B・C A・B・C A・B・C
		基礎デッサン1	3	トーンバリュースケール作成	・鉛筆の種類や道具の特性を理解し、トーンを段階に描き分ける。	A・B・C
5		基礎デッサン2	6	立方体デッサン演習	・等角図法による立方体の制作手順を体得する。 ・明暗の序列、立体感、空間感の観点を理解し、実感を伴う素描表現を身に付ける。	A・B・C A・B・C
	第二 回 考 査 範 囲	映像メディア表現 「写真表現」	7	・カメラによる撮影・構図の工夫 ・グループワークによる講評	・身の回りにもはや風景を構図による見え方の違いを意識して写真で切り取り、新鮮な表現を生み出す。 ・互いの写真を鑑賞し、創造的な見方・考え方で、意見を述べ合い、各自の作品を捉え直す。 ・制作意図等をワークシートに明確に記述する。	A・B・C A・B・C A・B・C
6		考査	なし			
		絵画 「西洋美術鑑賞」	2	・映像鑑賞(小テスト)	・各作品の精神面・造形面の制作意図や制作姿勢の違いを読み取り、自分の言葉で論述する。	A・B・C
7	第二 回 考 査 範 囲	「写真から描く風景画」 キャンバスに描くアクリル画	15	意図に応じたアクリル表現の可能性を追求する。 ・木炭デッサンの手法、地塗りの効果について ・構図、色彩、マチエールについて	・構図、色彩、マチエールの効果を理解し、各自の意図に応じた画面構成をエスキースの段階で十分検討する。 仕上がりを想定した地塗りの効果について理解する。 ・対象をよく観察し、木炭による明暗表現を適切に行い、空間感と実感が伴うデッサンを施す。	A・B・C A・B・C A・B・C
8				・制作意図のプレゼンテーション、鑑賞における観察・論述について	・色彩やマチエール等で意図に応じたアクリル表現を工夫、実践する。	A・B・C
9					・制作意図や工夫点等の詳細をコンセプト用紙に明確に記述する。 ・他者の作品を鑑賞し、作品の良さや造形的意図を感じ取り、自分の言葉で論述する。	A・B・C A・B・C
	第三 回 考 査 範 囲	等角図法演習	5	基礎デッサンの観点を応用し、平面図から立面図を描き起こす。適切な明暗表現で空間的に表現する。	・課題の条件を理解し、立体の形態、立体感、空間感を正しく想定し、実感が伴う明暗表現で鉛筆デッサンを行う。	A・B・C
10		クラフトデザイン 木工「ペーパーナイフ」	12	日常的な道具の制作を通して、素材を生かし、機能性と美しさを兼ね備えた「用の美」の追求を目指す。 ・道具について／用と美の世界観 ・日本文化と木の関わり ・材料や用具の特性と扱い方	・機能美に配慮して形を構想し、適切にスケッチや製図を行う。 ・意図に応じて材料や用具を効果的に使用し、実際の使用感や強度などを加味し、仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や構造の工夫等を明確に示す。 ・道具の扱いに注意し、片付けをしっかりと行う等、安全で計画的な制作態度を養う。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11		考査	なし			
12	第四 回 考 査 範 囲	グラフィックデザイン 「CIデザイン」 仮想企業のロゴ・シンボル マークのデザイン	16	マークの目的、形態の構成や色彩等の造形要素の働きを加味しながら、創造的な表現の構想を練る。 ・CIデザイン上の観点 ・マークの目的、機能、歴史 ・構成技法、配色について ・用具の特性と扱い方	・独自性や象徴性、造形性を加味しデザインを構成する。 ・日本や諸外国等の優れたマークの造形的な良さや社会的な役割、論理性を理解する。 ・デザインの構成理論、配色の色彩理論を理解する。 ・用具の特性を理解し、可読性や仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図を詳細に分かりやすく記述する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
1						
2						
	3	日本の美術 「箔講座」	2	・日本美術の特徴、歴史 ・金箔と白描画の技法	・日本美術の特性やその良さを理解する。 ・古典作品の特徴や美意識を作品の構図や表現に生かす。	A・B・C A・B・C

1年 コミュニケーション英語Ⅰ

○ 学 習 の ね ら い

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

教科書に載っている単語を調べ意味を確認する。その際、辞書を十分に活用する。
付属教材のアプリを用い、教科書本文の発音の確認をする。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

教科書・授業用ハンドアウト・辞書を用いて授業を行うことが中心になる。そのレッスンのストーリーがどのように展開されていくのか、段落ごとの関係性を把握しながら読む。またレッスンの内容によっては、適切なパフォーマンステストを授業内で行う。その他に、副教材で購入した単語帳に関連したペーパーテストも定期的実施する。

3 授業後 ～ 復習 ～

付属教材のアプリを用い、授業で習った教科書の本文（部分）を音読し、発音の確認をする。
ワークブックや授業用ハンドアウトの内容を、復習する。

○ 評 価 の 方 法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。

観 点	評価項目	スピー キング	ライテ ィング	リスニ ング	定期考 査（リー ディ ング）
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。				
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動 を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	◎	○	○	◎
外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを 適切に伝えている。	○	◎	○	◎
外国語理解の能力	外国語で聞いたり読んだりして、情報や考えなどを 的確に理解している。	○	○	◎	◎
言語や文化についての知 識・理解	外国語の学習を通して、言語やその運用についての 知識を身につけているとともに、その背景にある文 化などを理解している。	○	○	○	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	コミュニケーション英語Ⅰ	1年全クラス	3	World Trek English CommunicationⅠ (桐原書店)	4技能学習Naviブック(桐原書店)・ワークブック(桐原書店) English Central(アプリケーション・桐原書店) 英単語・熟語 Bricks 1(いっずな書店)	105

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	Lesson 1 A Smile Is the Best Greeting!	9	笑顔と第一印象	進行形・比較表現・完了形を使って表現できる 第一印象をよくする方法についての説明ができる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
5		Lesson 2 What is School to You?	9	学校とはどういう意味を持つのか	不定詞・動名詞を使って表現できる 自分とは違う学校観を理解することができる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
6		Lesson 3 Soccer Uniforms Say a lot about Countires	10	ユニフォームからわかる各国の背景	助動詞・受動態を使って表現できる 外国の文化について説明することができる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
		考査		1		
7	第二 回 考 査 範 囲	Lesson 4 Q&A about Nature	10	動物の生態	SVC/SVOの構文を使って表現できる 動物の生態について説明ができる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
8		Lesson 5 Challenge Your Limits!	10	障害者スポーツにおける挑戦	分詞の形容詞的用法を使って表現できる 困難への立ち向かい方に共感することができる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
9		考査		1		
10	第三 回 考 査 範 囲	Lesson 6 The Wonderful World of Colors	10	色彩にまつわる科学	関係代名詞を使って表現できる 説明文を理解できる/関心ある物事の説明ができる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
11		Lesson 7 Hakulea's Adventure	10	ポリネシアの航海について	完了形・形式主語を使って表現できる 物語文を理解することができる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
		考査		1		
12	第四 回 考 査 範 囲	Lesson 8 The Secrets of Cup Ramen	10	カップラーメンに秘められた物語	関係副詞を使って表現できる 論理だてて文章を構成し発表することができる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
1		Lesson 9 Rose O'Neill	10	ローズ・オニールさんの伝記	分詞構文を使って表現できる 伝記を読んで理解することができる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
2		Lesson 10 Potato Stories	10	ジャガイモの歴史	SVOC/SVC/SVOOを使って表現できる 歴史についての文章を読み、順序だてて理解できる 正しい発音で本文を読むことができる	A・B・C
		考査		1		
3		新年度の準備 Haruhi, an Amazing Girl	3	日本の小説の英語版を体験	物語のあらすじを理解し、説明することができる	A・B・C

1 年 英語表現 I

○ 学 習 の ね ら い

- ①既習の文法事項を活用して、様々なことを英語で表現し、コミュニケーションする態度を養う。
- ②異文化をよく理解し、多様な観点から自分の意見を述べる力を身につける。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ①教科書の Model Conversation と build-up の英文を数回音読する。
- ②意味のわからない単語や語句を辞書で調べる。
- ③学習する文法事項を確認する。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ①説明をよく聞いて、わからないことは質問する。
- ②板書事項だけでなく、口頭による説明で大事なところはノートに書く。
- ③コミュニケーション活動に積極的に取り組む。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ①学習した英文を何度も音読する。
- ②学習事項を復習しノートを整理する。
- ③教科書やプリントの問題をもう一度解く。

○ 評 価 の 方 法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	スピー キング	ライテ ィング	リスニ ング	定期考 査
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動 を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	◎	○	○	◎
外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを 適切に伝えている。	○	◎	○	◎
外国語理解の能力	外国語で聞いたり読んだりして、情報や考えなどを 的確に理解している。	○	○	◎	◎
言語や文化についての知 識・理解	外国語の学習を通して、言語やその運用についての 知識を身につけているとともに、その背景にある文 化などを理解している。	○	○	○	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	英語表現 I	1年 全クラス	2	Vision Quest-Revised English Expression I 啓林館	Vision Quest-Revised English Expression I WORKBOOK 啓林館	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	Lesson 1	17	英文の分類(平叙文・疑問文・命令文・感嘆文)	家庭のルールについて説明できる。 自分やクラスメイトを紹介することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 2		文型(SV,SVC,SV,SVOO,SVOC) 自動詞と他動詞	普段行うことについて説明できる。 部屋などにあるものについて述べることができる。	A・B・C A・B・C
5		Lesson 3		現在形・過去形・未来形 副詞節で用いる現在形	興味・関心のあることについて説明できる。 最近休日にしたことを説明できる。 今後の予定について説明できる。 旅行の計画について説明できる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		Lesson 4		現在完了形・現在完了進行形 過去完了形・未来完了形	これまで行った場所について説明できる。 初めて経験したことについて説明できる。 スポーツの経験について説明できる。	A・B・C A・B・C A・B・C
	考 査		1			
7	第二 回 考 査 範 囲	Lesson 5	17	助動詞(can,could,may,might,must,should, had better, will, would, used to) 助動詞＋完了形・wouldの慣用表現	学校の規則について説明できる。 過去の習慣について説明できる。 いつかしたいことを説明できる。	A・B・C A・B・C A・B・C
		Lesson 6		受動態・助動詞を含む受動態 SVOOやSVOCの受動態	好きな曲・映画・本について説明できる。 最近驚いたことについて説明できる。	A・B・C A・B・C
8		Lesson7		不定詞の用法 不定詞の意味上の主語 不定詞の否定形	歴史的建造物について説明できる。 将来の夢について説明できる。 大切だと考えていることについて説明できる。 日常生活していないことについて説明できる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
9						
	考 査		1			
10	第三 回 考 査 範 囲	Lesson8	17	動名詞の用法 動名詞の受動態	得意なことについて説明できる。 楽しみにしていることについて説明できる。 好きな娯楽について説明できる。	A・B・C A・B・C A・B・C
		Lesson9		分詞の用法 分詞構文	写真に写っている人について説明できる。 日本の高校生の特徴について説明できる。 学校の制服について意見を述べることができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
11		Lesson10		関係代名詞 関係代名詞のwhat 関係副詞	知っている人について説明できる。 自分が必要としているものについて説明できる。 自分が住みたい場所について説明できる。	A・B・C A・B・C A・B・C
	考 査		1			
12	第四 回 考 査 範 囲	Lesson11	12	原級・比較級を使った比較表現 最上級を使った比較表現	2つのうちどちらが好きか説明できる。 最も有名だと思う日本人について説明できる。 社会問題について意見を述べることができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
1		Lesson12		直説法と仮定法 仮定法を使った慣用表現	仮定の話をすることができる。 自分が望むことについて述べることができる。 相手の悩みに対して助言できる。	A・B・C A・B・C A・B・C
		Option1		時制の一致	時制の一致について理解することができる。	A・B・C
2		Option2		準動詞のまとめ	準動詞の種類と意味を理解することができる。	A・B・C
	考 査		1			
3		Option3	3	否定	否定語の種類と意味を理解することができる。	A・B・C

令和２年度 宮城県宮城広瀬高等学校英語科 Can-Do リスト

	読むこと	評価方法	CE FR	聞くこと	評価方法	CE FR	書くこと	評価方法	CE FR	話すこと（やりとり）	評価方法	CE FR	話すこと（発表）	評価方法	CE FR
1 年前期	辞書の引き方（品詞の別）がわかる。「～禁止」等の短い簡単な指示を読み、理解することができる。辞書を使えばスラッシュごとの意味を理解することができる。	授業	A1	自分や学校・地域などの身の回りの事柄および趣味や部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、主要なメッセージである場所や時間等の重要かつ具体的な情報を聞き取ることができる。	授業・定期考査	A1	自分のこと（趣味・好き嫌いなど）や身近で簡単な事柄について、語彙や例文を参考に正確に書くことができる。	授業・課題・定期考査	A1	なじみのある/基礎的な定型表現を用いて、時間・日時・場所についての質問や、限られた個人情報についての質問をすることができる。またそれらの質問に適切な表現を用いて答えることができる。	授業・パフォーマンステスト	A1	定型表現や例文を参考に趣味・家族・好き嫌いや基本的な情報（時間・場所など）について、基本的な語句や表現を用いて、伝えることができる。	授業・パフォーマンステスト	A1
1 年後期	簡単なポスターや招待状などに日常生活で使われる短い簡単な文章を読み、理解することができる。簡単な複文を読み、その内容を理解することができる。	授業・小テスト・定期考査	A1	自分や学校・地域などの身の回りの事柄および買い物や食事など外で活動する上で必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、主要なメッセージに加えて、付属的な情報をほぼ聞き取ることができる。	授業・定期考査	A1	日常の話題について、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や表現を用いて情報・考え・気持ちなどを伝える短文20～30語程度で書くことができる。	授業・課題・定期考査	A1	なじみのある/基本的な語や言い回しを用いて、日常会話レベルの簡単な質問/単純な応答のやりとりをすることができる。 Ex: 様々な事柄の好き嫌いに関する意見交換	授業・パフォーマンステスト	A1	前もって発表の準備をすれば、身近な話題についての簡単な意見や日常生活の出来事について、基本的な語句や表現を学習した構文を用いて言うことができる。	授業・パフォーマンステスト	A1
2 年前期	簡単な語を用いて書かれた、個人的に興味のある文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	小テスト・定期考査	A1	学校の事柄・個人的な旅行の日程・スポーツ・料理などの身近な話題および公共の場でのアナウンスなど、高校生にとって比較的平易な社会的な話題を、ネイティブにとってやや遅いスピードで話されれば、主要なメッセージは聞き取ることができる。	授業・定期考査	A2	日常的な話題について支援を活用すれば、場面・状況に応じて、語句・表現を用い、and but, or などの接続詞や、if, when などの時・条件節を活用し、自分の意見を3文程度で書くことができる。	授業・課題・定期考査	A1	趣味や部活動・家事など、従事していることや没頭していることについて紹介したり、簡単な構文を用いた感想および疑問詞を用いた質疑応答をしたりすることができる。	授業・パフォーマンステスト	A1	前もって発表の準備をすれば、身近な話題や日常生活に関する簡単な事実について、基本的な語句や表現を学習した構文を用いて、筋道立てながら言うことができる。	授業・パフォーマンステスト	A1
2 年後期	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	小テスト・定期考査	A2	学校の事柄・個人的な旅行の日程・スポーツ・料理などの身近な話題および公共の場でのアナウンスなど、高校生にとって比較的平易な社会的な話題を、ネイティブにと	授業・定期考査	A2	自分に直接かわりのある環境（学校・地域・社会）での出来事を見たり、聞いたりした意見を支援を活用し、基本的なディスコースマーカー	授業・課題・定期考査	A2	写真や地図などとともに、first/then/nextなどのマーカーを用いながら、順序立てて説明することができる。	授業・パフォーマンスマ	A2	写真や地図を利用し、簡単な語句や文を用いて、趣味や特技で話を膨らませながら自分のことについて紹介したり、学校や地域などについて話したりすることができる。	授業・パフォーマンスマ	A2

		査		ってやや遅いスピードで話されれば、主要なメッセージに加えて、付属的な情報をほぼ聞き取ることができる。			を用い3文程度で書くことができる。	考查			ンステスト			ンステスト	
3 年 前 期	関係詞、仮定法など複雑な文法項目が入った文章でも全体の意味を理解することができる。スラッシュ同士のつながりを理解することができる。	小テスト・授業・定期考查	A2	高校生にとってやや複雑な内容である、外国の社会や習慣・国際問題などの説明や天気予報・空港などのアナウンスについて、ネイティブにとって普通に近いスピードで話される少し長めの内容を聞いて、主要なメッセージは、曖昧な部分がありながらも、推測し把握することができる。	授業・定期考查	B1	社会的な話題について、事前の準備で一定の支援を活用すれば、自分の意見を基本的なディスコースマーカを活用し論理性に注意して伝える文章を書くことができる。	授業・課題・定期考查	A2	簡単な英語で、ものごとに対しての、賛成・反対および付随する自分の考えや気持ちを、定型表現を用いて伝えることができる。 (+α) また他と比較をしながら客観的な情報を伝えることができる。	授業・パフォーマンステスト	A2	簡単な語句や文を用いて、自分の意見や予定・計画を、理由を挙げながら述べることができる。	授業・パフォーマンステスト	A2
3 年 後 期	抽象的な内容の文でも、自分で内容を整理しながら理解することができる。自分に必要な情報をやや長い文章から取り出すことができる。	小テスト・定期考查	B1	高校生にとってやや複雑な内容である、外国の社会や習慣・国際問題などの説明や天気予報・空港などのアナウンスについて、ネイティブにとって普通に近いスピードで話される少し長めの内容を聞いて、付属的な情報は少し曖昧でも、主要なメッセージは把握することができる。	授業・定期考查	B1	社会的な話題について、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や例文を用いて一定の支援を活用すれば、論理性のある内容を50～80語程度の文章を書くことができる。	授業・課題・定期考查	B1	自分の従事していること（趣味・部活動・家での暮らし）について、簡単な英語を用いて、多くの情報を伝えたり、それに対しての意見や気持ちなどをやりとりしたりすることができる。	授業・パフォーマンステスト	B1	前もって発表の準備をすれば、使える語句や表現を活用して、自分の夢や経験を順序立てある程度詳しく話したり、関心のある社会的な出来事について聞き手を混乱させないように伝えたりできる。	授業・パフォーマンステスト	B1

CEFR	スコア	実用英語技能検定			スコア	GTEC			TEAP
B2	2599 2300	準1級			1349 1190	Advanced			374 309
B1	2299 1950				1189 960				308 225
A2	1949 1700	準2級	2級		959 690	Core	Basic	Advanced	224 135
A1	1699 1400				689 270				
		3級							

1 年 社会と情報

○ 学 習 の ね ら い

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を身に付ける。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

教科書を読んでおく。本文だけでなく、図や注釈もチェックしておく。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

座学の授業ではワークシートを記入して毎回提出する。記入漏れや間違いがあった場合は、再提出する。

実習において全員が必ず取り組む課題を「必修課題」と呼ぶ。必修課題は、その時間中に完成させ授業担当者のチェックを受ける。

先生の話は集中して聞き、ポイントをメモする。

3 授業後 ～ 復習 ～

情報社会に積極的に参画するためには、情報に関する知識と技能の習得が大切である。定期考査の前だけでなく、日ごろから復習に取り組むこと。

○ 評 価 の 方 法

定期考査の割合は70％を原則として、下記の観点に基づいて100点満点で総合的に評価を行います。

※評価の観点は以下のとおり。

観 点	評価項目	学習 状況 の観 察	発 表 等	提 出 物	小 テ ス ト	定 期 考 査	
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。						
関心・意欲・態度	「情報」やコンピュータに関心を持ち、積極的に活用しようとしている。	◎	◎	○		◎	
思考・判断・表現	情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受信および発信時に配慮すべき事項について考え、適切に判断し表現している。	○	◎		◎	◎	
技能	実習を通して、伝えたい情報を分かりやすく表現するために必要な技能を修得している。	○	○	◎	◎		
知識・理解	情報および情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識が身についている。	○			○	◎	

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
情報	社会と情報	1年 全クラス	2	新編 社会と情報 (東京書籍)	基礎からはじめる情報リテラシー(実教出版)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考 査 範 囲	オリエンテーション 1章 01 情報とさまざまなメディア 02 伝達の仕組み 03 ネットワークで広がる世界 04 情報の共有 05 インターネットの利用 06 デジタルデータの特徴 07 デジタルの世界 08 数値と文字のデジタル化	8	・学習目標、授業の進め方、評価、情報処理室の使い方について知る。 ・情報とは何を意味するか考える。 ・情報伝達のメディアの種類を知る。 ・ネットワークでの情報伝達におけるメディアの役割を学ぶ。 ・SNSや動画共有サイトなど情報の共有サイトと付き合い方を考え、どんな種類があるか調べてまとめる。 ・電子メールやWebページなどインターネット利用時のサービスについて学ぶ。 ・デジタルデータについてプラス・マイナスの両面から特徴を理解する。 ・デジタルとアナログについてのおおののメリット・デメリットを学ぶ。 ・2進・10進・16進法について学ぶ。	・「社会と情報」の学習目標について理解できる。 ・情報やメディアの意味や特徴を理解できる。 ・情報伝達の目的に応じたメディアの種類が分かる。 ・ネットワークでのメディアの役割を理解できる。 ・ソーシャルメディアについて理解でき、その種類と特徴が分かる。 ・電子メール、WWWなどが利用できる。 ・プラス・マイナスの両面からデジタルデータの特徴を理解できる。 ・デジタルとアナログについてのおおののメリット・デメリットが理解できる。 ・2進・10進・16進法の計算、文字コード表の変換ができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
5		文書作成ソフトによる文書作成	8	・文書作成の基本について学習する。	・ビジネス文書やビジュアルな文書を作成することができる。	A・B・C
6		考 査	1			
7	第二回 考 査 範 囲	2章 11 IPアドレスとルータ 12 サーバの役割と仕掛け 13 インターネットへの接続 14 WWW 15 電子メール 16 情報検索 17 情報の信頼性 18 コミュニケーション手段の発達	7	・インターネットにつながる仕組みを学習する。 ・サーバとクライアントの仕組みを学習する。 ・インターネットに接続する手順や接続できる機器について確認する。 ・WWWのハイパーリンク、HTML、URL、DNSなどを学習する。 ・ドメイン名、SMTP、POPやIMAP、Webメールについて学習する。 ・検索エンジンの種類(カテゴリ検索とキーワード検索)と方法を知り、効率よく検索する工夫を考える。 ・メディアリテラシーについて学び、インターネット上の情報の信憑性を考える。 ・アナログからデジタルに変化したものを挙げ、メディアの変化を学習する。	・インターネットでは、TCP/IPというプロトコルが利用されていることを理解できる。 ・クライアントサーバシステムが理解できる。 ・インターネットに接続する手順や接続できる機器が理解できる。 ・WWWの仕組みやWWWIに関する用語を理解できる。 ・電子メールが届く仕組みや送受信のプロトコルを理解できる。 ・検索エンジンの仕組み理解し、効率よく検索できる。 ・メディアリテラシーについて理解し、実践できる。 ・コミュニケーション手段の発達の変遷を理解できる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
8		表計算ソフトによる表・グラフの作成	8	・表計算ソフトの基本的な使い方を学習する。	・表計算ソフトを用いたグラフの作成方法を身に付ける。	A・B・C
9		考 査	1			
10	第三回 考 査 範 囲	3章 21 インターネットにおけるのめり込み 22 のめり込みをやめる 23 出会いトラブルの危険性 24 個人情報やプライバシーを守る 25 ネットワーク詐欺に遭わない 26 情報セキュリティに気をつける 27 相手を傷つけない 28 慎重に投稿する	9	・インターネットへののめり込みが引き起こす問題について考える。 ・のめり込み理由と抜け出す方法を具体的に考えて生活に生かす。 ・出会い系トラブルの危険性や法律について学習する。 ・個人情報流出の事例を確認する。 ・ネットワーク詐欺の種類と対策について学習する。 ・不正アクセス対策の方法と法律について学習する。 ・ネットいじめの事例や仕組み、対策について考え学習する。 ・軽率な投稿が起こす問題を考える。	・インターネットへののめり込まないための方法を理解できる。 ・生活時間を見直し、問題点を挙げ、マイルールを作れる。 ・出会い系トラブルや個人情報流出から身を守るための方法を理解し、生活に生かすことができる。 ・ネットワーク詐欺の種類と対策について理解できる。 ・不正アクセス対策の方法と法律について理解し注意できる。 ・インターネット上で攻撃やいじめに注意する自覚や軽率な投稿をしない意思を持てる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11		プレゼンテーションソフトによるスライド作成	8	・プレゼンテーションソフトの基本的な使い方を学習する。	・プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成方法を身に付ける。	A・B・C
12		考 査	1			
1	第四回 考 査 範 囲	4章 33 情報技術と仮想空間 34 情報技術と流通システム 35 情報化と社会の変化 36 誰もが情報を利用できる社会 37 デジタルデバインド 38 システムの信頼性 39 問題解決 40 発想法	9	・バーチャルリアリティや拡張現実、3D技術について学習する。 ・ICタグや電子マネーを学習する。 ・eラーニングや情報家電、災害時の情報活用事例について学習する。 ・ユースザインタフェースやユニバーサルデザイン、バリアフリーを学ぶ。 ・デジタルデバインドと解消の方策について学習する。 ・バックアップ、フルブルー、ファイルセーフの方法を知る。 ・問題解決の4つのステップを学習する。 ・さまざまな発想法(ブレインストーミング、KJ法、マインドマップ)を学習する。 ・Webページの作成について学習する。	・仮想空間の情報技術について理解できる。 ・流通システムや学習環境、生活環境で使われている情報技術を理解できる。 ・誰もが使いやすいように配慮することの重要性を理解する。 ・デジタルデバインドと解消に配慮することができる。 ・システムの信頼性を保つための工夫や対策方法を理解できる。 ・問題解決の4つのステップやさまざまな発想法を理解できる。 ・より良いスライドを作成できる方法を理解する。 ・わかりやすい、効率的な伝達方法を理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
2		プレゼンテーション実習	8	・プレゼンテーションについて学習する。		A・B・C
3		考 査	1			
			1	・総復習		

第 1 回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
国語総合(現代文)			
国語総合(古典)			
世界史A			
倫理			
数学 I			
数学A			
生物基礎			
保健			
コミュニケーション英語 I			
英語表現 I			
社会と情報			

【3】 学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 2 回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
国語総合(現代文)			
国語総合(古典)			
世界史A			
倫理			
数学 I			
数学A			
生物基礎			
保健			
コミュニケーション英語 I			
英語表現 I			
社会と情報			

【3】 学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ　モ

第 3 回定期考查学習計画

【1】定期考查日程

考查時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考查点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
国語総合(現代文)			
国語総合(古典)			
世界史A			
倫理			
数学 I			
数学A			
生物基礎			
保健			
コミュニケーション英語 I			
英語表現 I			
社会と情報			

【3】学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 4 回定期考查学習計画

【1】定期考查日程

考查時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考查点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
国語総合(現代文)			
国語総合(古典)			
世界史A			
倫理			
数学 I			
数学A			
生物基礎			
保健			
コミュニケーション英語 I			
英語表現 I			
社会と情報			

【3】 学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

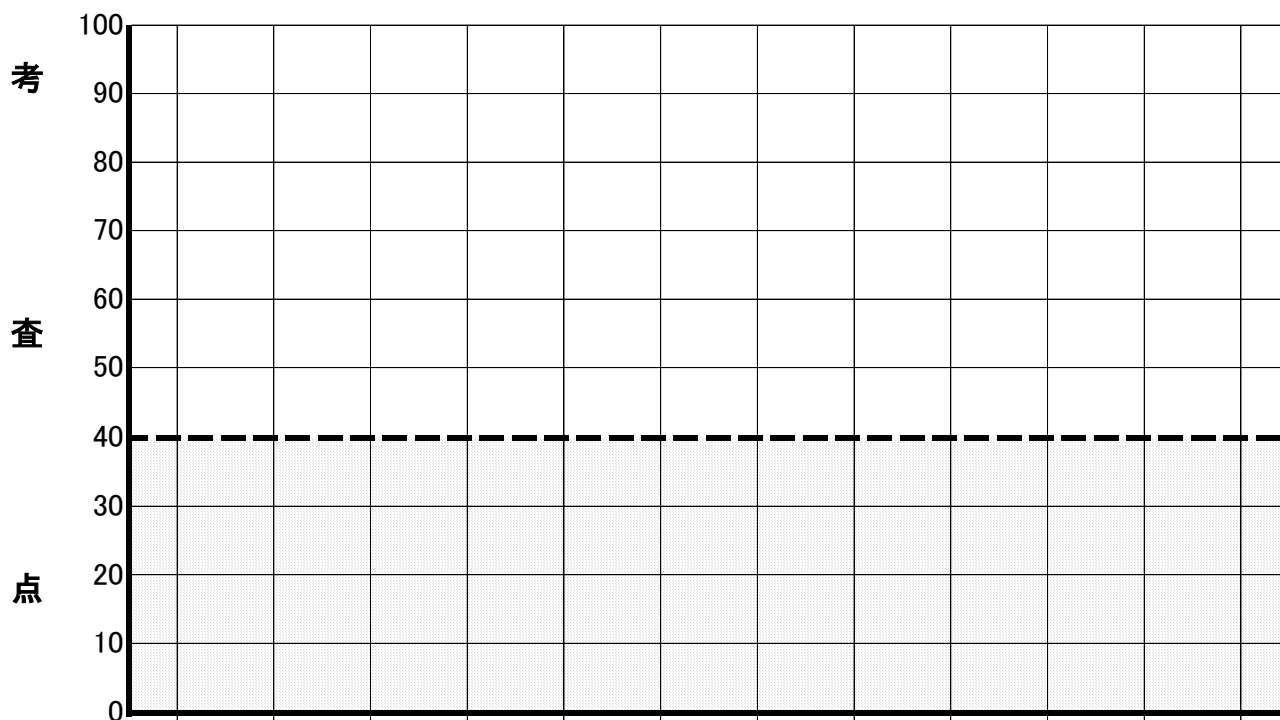
○考查点をグラフで書きましょう

1期:黒

2期:赤

3期:青

4期:緑



科目名												
1期考查点												
2期考查点												
3期考查点												
4期考查点												

○評価点
のまとめ

1期評価点												
2期評価点												
3期評価点												
3期までの 合計点												
目標評定												
4期 目標点												
4期評価点												

評定「5」: 評価点80~100点

評定「4」: 評価点70~79点

評定「3」: 評価点50~69点

評定「2」: 評価点40~49点

評定「1」: 評価点39点以下

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校

印刷業者

株式会社 鈴木印刷所

住所 983-0852

仙台市宮城野区榴岡 3-8-1

TEL 022-295-5905

FAX 022-295-1985

1 年	組	番	氏名
-----	---	---	----